

執行委員長挨拶	1P
書記長挨拶	2P
全大教教研集会報告	3P
全大教技術職員交流会報告	4P
ろうきん〈自動車ローン〉	4P

## 9.5 全大教単組代表者会議に参加して

執行委員長 川幡佳一

2009年度執行委員長の川幡佳一です。人間社会・学校教育(旧教育学部)で生物の教科内容を担当して20年目になります。専門は、淡水浮游性甲殻類の生態学です。水中生物の関係の総体を扱います。

今年度活動方針の詳細については定期大会に譲りますが、基本方針は運動の継続です。賃金問題、中期目標・計画問題など、労働者の現在と将来にとって重要な取り組みを続けます。幸い、昨年度執行部にも引き続きご協力いただけることとなり、この点も定期大会にお諮りします。

本稿では、初仕事の報告をもってご挨拶に代えさせていただきたいと思います。

9月5日18時より開催された全大教単組代表者会議に出席しました。会場の静岡大学静岡キャンパスは、静岡駅からバスで25分行った山の中にあり、マムシ注意の看板が目につきました。同じく交通不便で熊出没のキャンパスもありましたね。

さて会議は満月の下、狭い教室に百名ほどが詰めかけ、「09人勤に基づく賃金切り下げ問題に関する方針」という切実な問題が熱く議論されました。乾き切った大地に雨の恵みが染み入るように、まさに明日使える理念と方法が示されました。学生には目先のマニュアルだけを求めてはいけないよと説教していますが、背に腹はかえられないとも言います。B級グルメ以外にも、はるばる列島の反対側まで行った甲斐がありました。

基本は9条です、労働契約法の。こちらの9条は、労働者の合意がない不利益変更を禁じており、解釈の余地はありません。

そして、人事院勧告は国家公務員のデータを使った国家公務員に対するものであり、われわれ法人労働者には無縁のものであるということ。

ちなみに、われわれの給与水準はすでに国家公務員のそれよりはるかに低いのです。

これに人勤を適用するのは、安売りスーパーでさらに値切るような酷な話で、大阪のおばちゃんでもそこまではしません。また、法人への運営費交付金は年度当初に決定しており、人勤によって事後的に削減されたり、返納を求められたりはしないのです。「賃金・労働条件は労使の交渉で決めるもの」というのが、8月26日に文科省が全大教に示した回答です(詳しくは『全大教』

243号で)。

中村学長が昨年4月の所信表明で揚げられた5つのビジョンのトリが「法人としての自主的・自律的な運営を行うこと」です。

労使が協調して、是非実現したいものです。



# 組合活動によって〈連帯の力〉を取り戻す

書記長 田邊 浩

このたび思いがけずも書記長の職務をお引き受けすることになりました、人間科学系、地域創造学類の田邊です。これまでに分会の委員を務めたことはありますが、本会の役員を務めることは初めてのこととなります。大学法人化とそれに続く大学改革という激動の時期に、書記長の任はとても荷が重いのですが、組合員のみなさまがたと協力し、本学の健全な発展のために微力を尽くしたいと思っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

金沢大学教職員組合が、いま取り組まなければならない課題はいくつもあるかと思えます。なにを優先して行うべきか。昨年度の書記長は、就任挨拶において「組合活動を知ってもらうための組合活動を」と述べられております。すなわち、組織の拡大と強化です。私もこれを引き継ぎ、自らの本年度の活動方針にしたいと考えております。というのも、学生の方々と話をしている、かれ・かの女らの持つ労働組合のイメージの悪さを知り、驚かされたからです。なぜそうなのか、私の専門とする社会学からすれば、これ自体興味深い研究対象となりますが、それはともかく、金沢大学教職員組合もこうしたことから無縁でいられるでしょうか。かれ・かの女らが例外でないとするならば、早晚、組合離れが強まることも考えなければならないでしょう。確かに、労働組合の力は弱まったようにも思えます。では、それはもはや歴史的使命を終えた組織なのでしょう。むろん、そのようなことはないでしょう。

もともと類人猿は社会的動物であるかのようなイメージがありますが、必ずしもそうではなかったようです。多くの類人猿は、社会的結合のための紐帯を欠いており、結果として、そのほとんどが他の動物に狙われてなすすべなく絶滅したようです。ですが、ヒトという種は生き残りました。それは、ヒトが感情を通じて連帯し、社会的結合を作り出すことに成功したから

のようです。ヒトは単独であるならば、かなり無力な存在です。ですが、連帯することによって、大きな力を得ることができるはずで

す。労働組合というものは、歴史的に見れば、近代社会の本格的な到来とともに断ち切られた伝統的な連帯を新たな形で取り返す試みだったはずで

す。そうして、圧倒的な資本主義社会の力に対抗する基盤となってきました。こうした連帯の力を取り戻さねばなりません。組合が、組合員の労働条件をよりよいものとする

ことをめざすのは当然のことではあるでしょう。ですが、むろんそれだけではありません。わたしたちの働く場である本学をよりよいものへと発展させることに貢献することが、私たちの組合の目的でもあるはずで

す。そのために、さまざまな立場や考えのもとにある教員や職員が、その力を結集して何ごとかを成し遂げるための拠点でなければなりません。

知識も経験も乏しく、書記長という大役を務めるにははなはだ微力な身ではございますが、執行委員のみなさま、組合員のみなさまと協力し、書記長に課せられた責務の一端でも果たすことができるよう努める所存です。よろしくご教示、ご支援賜りますよう、お願い申し上げます。



## 活動日誌 8月

- |        |  |
|--------|--|
| 5日     | 教研集会   |
| 22・23日 | 「教職員評価問題と第二期中期目標・計画」<br>全大教中部ブロック<br>技術職員交流会<br>(山中温泉) |
| 25日    | 四役会議<br>新旧引継の会   |
| 26日    | 第1回執行委員会<br>附属学校園大会                                    |

# 全大教 教研集会に参加して

さる9月4～6日、静岡で行われた全大教教職員研究集会に参加しました。分科会は、金大での所属に倣って「教員養成系大学・学部問題」に出席しました。今回の分科会は特定のテーマに焦点を当て、それを多角的に掘り下げて論じるというよりは、レポート担当大学がそれぞれの組織で発生している問題を発表し、発表者と情報交換を行うというものでした。さまざまな問題が提起されましたが、なかでも教員免許状更新講習と大学院改組が活発に議論されました。

前年の予備講習を経て、2009年から全国の大学で講習が実施され、金沢大学でも多くの講座が開講されました。しかし、政府内委員会での発案から実施までの期間が短かったため、当初からさまざまな制度上の弊害や不整合（たとえば、学校教員の多忙化の問題、また10年研修との整合性をどうするのかなど）を抱えていましたし、分科会でもそれが中心的な話題になりました。また、講習の手続きの煩雑さや、開講形態の予測不可能性

（収容予定人数を大幅に下回る講座が続出した大学も珍しくなかった）も改善点として指摘されました。さらには免許講習の趣旨の解釈次第で、非常に厳格な運用形態になってしまうケースもあり、その場合は事務手続きが過剰な負担となるという報告もありました。答案の取り扱いについては、ジュラルミンケースによって移動・保管するなど、大学入試並みのセキュリティを実施している大学もあるそうです。さすがにそれはやりすぎでは、と思いましたが…。

他方、講師を務めた教員からは、現職教員が大学の空気に触れることでそれまでの教育方法を見直す契機になるという利点を実感したという報告もありました。しかし、政権が移行したことで、更新講習の存続自体が曖昧になってきていることもあり、分科会としての結論を確認したわけではありません。当面は各大学がやりやすいように対応するしかなさそうです。

大学院改組については、現職教員の実践力アップを掲げた教職大学院と従来からの大学院（以下、学部大学院とします）という二つの大学院

について議論がありました。前者の大学院の設置には、スタッフに教育現場経験者を揃えることや、学部や学部大学院とは全くの別組織としなければならないなど、高いハードルをクリアしなければなりません。したがってレポートも、400名の学部学生定員を擁する静岡大学教育学部と、単科大学である宮城教育大学によって行われました。興味深い現象としては、教育現場経験を持つ現職教員の大学院生と学部を出たばかりの大学院生が同じ授業やゼミに出るという従来の大学院の良さが、教職大学院の設置によってなくなってしまったという指摘でした。実践に特化した組織ができたため、現職教員はそこに所属し、新卒大学院生は学部大学院という分断が生じたのです。これは、いろんな人材がお互いに刺激しあうという大学の存在意義に関わるたいへん重要な問題です。

一方、学部大学院の改変については、高知大学から発表がありました。改変の内容は、従来の科目別専攻制から、小講座をまとめたコース制への転換で、金沢大学の学校教育研究科の大学院改組と似たものでした。改組の結果生じた教員の負担の不均衡などは、金沢大学の大学院が抱える潜在的な問題と共通したものでした。

正直なところ、この2、3年のうちに大規模な学部改変と大学院の抜本的改組を経験した金大教育学部（学校教育学類）の一教員にとっては、驚くほどの新情報はありませんでした。ご存じの通り、独自の特色に欠けるという教員養成系の大学院に対する批判を受けて、文科省は改革に着手しました。そのモデルケースの一つが現在の教育学研究科ですので、分科会では金大からの出席者への質問もいくつか寄せられました。改組の関連として、学校教育学類への改組や新課程定員の他学類への移行なども訊かれました。

私自身も免許状講習の講師を務めましたので、分科会での議論は自分の体験に照らし合わせて聞きましたし、そこで提案された問題点や改善点は深く首肯します。しかしながら、具体的にどう行動すべきかという点では、前述したとお



り、教員免許状更新制度の将来がきわめて不透明ですから、しばらく現状を静観するしか方策がないのだろうと思います。

他大学の報告を聞いてあらためて分かったのは、金大の学校教育学類がおそらく全国一の小規模所帯であることです（学生定員は100名で、スタッフ数は免教法上最低人数の50数名です）。言い方を変えれば、ここまで規模を縮小しても教員養成系学部・大学院が成立してしまうということを証明してしまったわけです。団塊の世代の大量退職と都市部での子供人口の増加による近年の教員需

要の増加は、2015年前後にピークを迎え（つまり2011年度の入学生が現状の恩恵を受けられる最終世代！）、その後再び縮小に転じるという予測があります。近いうちに教員養成系学部・大学院の大規模な改組が行われる可能性もあるわけです。そのときに金沢大学の事例が、文科省にとって都合のいいモデルケースとして利用されるのか？という心配が頭をよぎりました。

（学校教育系 Y）



## 金大教中部ブロック技術職員交流会参加して

2009年8月22日（土）13:00 ～ 23日（日）12:00  
山中温泉「たわらや」で開催されました。

6単組12名（金沢大、静岡大、名古屋大、名古屋工業大、福井大、三重大）の方が出席しました。このような会には初めての参加でした。

ゆっくり温泉につかって、おいしい御馳走でも食べて元気出そう、という気持ちで出かけて行きました。

しかし、場違いというのはこのことで、私以外の参加者の方はとても熱心に報告、意見換しておられます。主に、「処遇改善」、「継続雇

用・定年延長」についての話ができました。

各大学また学部によって大きく違います。技術部の組織ではどの大学も、工学部がしっかりしており、なかでも名古屋工業大学が光っていました。

この交流会に参加してみて、「私は何も知らない！」ということがよくわかりました。でも、知っているのと知らないのとでは大きく違います。少し勉強になりました。ありがとうございました。（T）



### 自動車ローンなら〈ろうきん〉がお得!! 〈組合員〉への優遇制度あり



無担保

くるま自慢キャンペーン

2009年9月1日～2010年5月31日



#### キャンペーン優遇金利

変動

年**1.9%**(最優遇金利)～2.6%

通常の基準より年**0.625%**金利を引き下げ!!

#### ●優遇金利幅 0.1%

##### ◎◎教職員組合員の方

#### ●優遇金利幅 0.3% (いずれかひとつ)

- 給与振込み（10万円以上）指定の方
- 財形貯蓄（2契約以上）加入の方

#### ●優遇金利幅 0.1% (いずれかひとつ)

- 給与振込み（5万円以上10万円未満）指定の方

○財形貯蓄または、積立型預金契約の方

○カードローン「マイプラン」契約の方

#### ●エコカー購入の方! 0.1%

#### ●繰上返済の手数料不要!

まとまった資金ができたとき、一部返済・繰上返済時の手数料が不要です。

